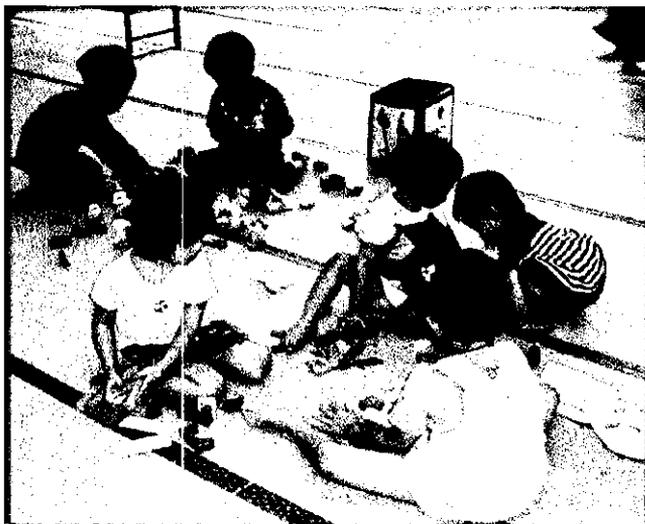


## ワーキングママサロン

ワーキングママサロンはママたちの希望ではじまった集まりです。平成13年度からはじまりました。毎月第2土曜日の10時～正午に総合保健福祉センターで実施しています。メンバーは12人です。内容は自由遊びとママ同士のおしゃべり、情報交換が主で、軽食をとって終わります。育休中から参加している人もいます。



<b>光市健康増進課：おっぱい育児推進事業</b>		
〒743-0011 山口県光市光井二丁目2番1号 (TEL) 0833-74-3007、(FAX) 0833-74-3072 (E-Mail) kenkouzoushin@city.hikari.yamaguchi.jp (ホームページ) http://www.city.hikari.yamaguchi.jp/		
人口 56,036 人(出生数 456 人) 母子保健担当者:保健師・栄養士・歯科衛生士、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	光市では、母乳栄養率が全国平均に比べて極めて高かったことから、当初はこれを維持推進していくことから始まった。その後、母乳が出る人も出ない人も、胸＝おっぱいでしっかりと赤ちゃんを抱きしめみつめあって、ふれあいの子育てをしましょうという方向性を見出した。平成 7 年 3 月光市議会にて「おっぱい都市宣言」が採択された。	
提案者	その他(保健師全員)	
事業のねらい・目標	おっぱい育児とは、ふれあい子育てである。こどもを胸＝おっぱいでしっかりと抱きしめ、豊かな心を持って、ふれあいの子育てを楽しむこと。また、親子がみつめあい、スキンシップをしっかりとること。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	新生児 乳児 幼児 学童 思春期 父親 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関
	実施期間	昭和 51 年 9 月 ～ 未定
	実施内容	おっぱい育児の推進 ・おっぱい冊子配布 ・おっぱい体操(親子編・大人編) ・おっぱいまつり ・おっぱい相談電話 ・母親教室にて「優・YOU・お産&おっぱい」の講義 ・保健師による新生児訪問指導・乳児訪問指導・育児相談 など
	協力機関	保健センター・保健所 子育て支援センター 保育園 学校 教育委員会 警察 消防署 病院 診療所 地域のボランティア
住民参画状況	計画から参加 実施主体側として	

従事者内訳	保健師 栄養士 助産師 医師 歯科医師 歯科衛生士 事務職員 保育士 教員 養護教諭
補助金・助成金	市町村
事業の評価	■数値目標を評価した
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実      ■小児医療の充実      ■子どもの事故防止 ■虐待の発生予防      ■思春期における性教育の推進      ■食育の推進 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進
<p>**** コメント ****</p> <p>「おっぱい育児推進事業」というユニークな名前が付いた子育て支援事業である。市町村の事業名や都市宣言の名称は堅いものが多いが、ここでは市議会で平成7年に「おっぱい都市宣言」という親しみやすいネーミングの都市宣言が採択されており、それ以降、様々な子育て支援事業の名称に「おっぱい」という言葉が使われている。(おっぱいまつり、おっぱい電話相談、おっぱい体操、等)住民に親しみやすさを感じさせる工夫をしている点で評価できる事業である。(TT)</p>	



<b>合志町福祉課：妊婦あかちゃんふれあい体験事業</b>		
〒861-1195 熊本県菊池郡合志町大字竹迫 2140 (TEL) 096-248-1111、(FAX) 096-248-1196 (E-Mail) koshi-machi@town.koshi.kumamoto.jp (ホームページ) http://www.town.koshi.kumamoto.jp/		
人口 22,542 人(出生数 209 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	核家族化、転入、結婚等により、合志町で生活する夫婦が相談できる人が少ない、知り合いがいないという中で子育てをして、育児不安を抱えながら生活している人もいるという状況から、育児支援の面から知り合いを増やしてもらうこと、又、あかちゃんを抱いた経験のない初妊婦もいることから取り組みを考えた。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	妊婦及びその夫が、あかちゃんを抱いたり世話をするなどのふれ合い体験をすることにより、また、子育て中の母親と話すことで、生まれてくる子どもを待ち望む気持ちを高める。 育児への漠然とした不安を安心感へ変えるためのひとつの方法。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	その他(初産婦及びその夫)
	実施期間	実施期間 平成 15 年 6 月 ~ 平成 19 年 3 月 4 年計画
	実施内容	現在実施の母親学級(2 回を4クール)の3回目として、初妊婦及びその夫を対象として開催。 毎月実施の健康相談に、25 組くらいの親子が参加するため、その場をふれ合い体験として協力してもらう。 初妊婦同士の知り合いの場となる。 3ヶ月に1回の実施。 6 月は、通知者 27 名に対し、9 人の初妊婦と 2 人の夫が参加 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 栄養士 その他(看護師)
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	終了後、アンケートを実施。あかちゃんを抱っこしてどうだったか、などの感想を記入してもらう。 出産後、参加者を全員訪問を目標にして、ふれ合い体験がどのように役立ったかの確認をする予定。

今後の課題	夫の参加が、今後のびていくかどうか。 育児を具体的に手伝ってもらうための沐浴や話をしてほしいという要望があったが、プログラムの中に入れることは、困難なため、今後どう対応するか。
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実
<p>**** コメント ****</p> <p>赤ちゃんとふれあう機会を設けた妊婦教室である。赤ちゃんととのふれあい体験を通して、育児への漠然とした不安の軽減や初妊婦同士の交流の場を設けることを目的として行われている。一般的に妊婦教室は妊婦のみが参加して行われることが多いが、妊婦教室の中に赤ちゃんやその保護者との交流の機会が設けられており、核家族の増加や地域での交流の減少に伴い妊婦の中には赤ちゃんを抱いたことがない人も増えている現状において先駆的な事業といえる。(TT)</p>	



<b>有田市健康対策課保健指導係 : あそびの教室</b>		
〒649-0392 和歌山県有田市箕島 50 番地 (TEL) 0737-83-1111、(FAX) 0737-82-1725 (E-Mail) kentai@city.arida.wakayama.jp (ホームページ) <a href="http://www.city.arida.wakayama.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AM04000">http://www.city.arida.wakayama.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AM04000</a>		
人口 33,661 人(出生数 320 人) 母子保健担当者:事務・保健師、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 7 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	発達に遅れやつまずきのある子どもの育ちを支援する為、発達の遅れから育児不安になりがちな家族を支援する為の場が必要である。 また、保護者の育児ベタ、地域で気軽に相談できる人がいないなど、様々な育児不安や育児ストレスを持つ保護者の支援も必要である。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	教室を通じて、子どもたちが集団の中で意欲的に楽しく活動することにより、よりよい発達を支える。 母親同士の仲間作りの場の提供、交流を通じて、保護者自身の成長を支える。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	幼児 父親 母親 家族
	実施内容	毎週 1 回実施。 親子遊びや、子どもの持つ力に応じた遊び、季節の行事、おやつの調理など。 教室の中で、保健師や保育士が個別に悩みを聞いたり相談を受けたりできる時間を設ける。 保育士・保健師が同伴訪問し、家庭での親子の様子を確認し、より細かな相談・支援を行う。 ■相談機能の強化
	協力機関	子育て支援センター 保育園
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 栄養士 保育士
	補助金・助成金	なし
事業の評価	保護者と保育士・保健師の連絡ノートを使い、毎回の感想や家庭での児の様子など、また保育士・保健師からは児の伸びやアドバイスなどをやりとりすることで、より細かな支援ができています。 子育てのしにくさ、発達につまずきのある子を持つ母親に対してのフォローの場として、	

	<p>児に関しては必要な場合早期に療育へつなげることでできる場として活用されている。</p> <p>■今後も継続する</p>
今後の課題	<p>対象児への関わり方と、母親へのフォローのレベルアップ。</p> <p>対象児が増えてきていること、年齢差があることなどから、年齢でグループ分けするなど、運営方法の見直しが必要。</p>
キーワード	<p>教室 発達 支援</p> <p>■地域の子育て支援の充実</p>
<p>**** コメント ****</p> <p>発達に遅れやつまずきのある子どもとその保護者を支援するための事業である。この事業には保健師とともに保育士が関わっている。保護者と保育士・保健師とのコミュニケーションツールとして連絡ノートを用いており、また保育士と保健師が同伴訪問することで家庭での親子の様子を確認し、より細かな相談・支援が行われている。保健師だけの単独での家庭訪問が行われることが多い中で、保育士と同伴で家庭訪問を行っており、それぞれの専門的立場からきめ細かなフォローが行いうる点で評価される事業である。(TT)</p>	



<b>東京都杉並区杉並保健所 : 保護者のこころの相談</b>		
〒167-0051 東京都杉並区荻窪 5-20-1 (TEL) 03-3391-1025、(FAX) 03-3391-1927 (E-Mail) sui50040@city.suginami.tokyo.jp		
人口 524,835 人(出生数 3,655 人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士・その他(医師、 歯科医師)、全保健師数 50 人(母子保健担当保健師数 50 人) 区分:政令市・特別区		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	4か月健診での産後うつスケールの実施や、グループカウンセリング等の多様化してきた虐待 予防事業の中で、専門家による見立てや助言が必要になってきた。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい ・目標	乳幼児の保護者の育児不安、育児負担感によるこころの問題への専門相談を行うことにより 保護者が安心して育児ができるよう支援するとともに、早期に虐待予防を図る。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	あり	
事業 内 容	対象	父親 母親
	実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 17 年 3 月 2 年計画
	実施内容	5保健センターにおいて実施。マザーメンタルに理解のある精神科医師が年に4回、心理相談 員が年に9回。対象は主に、産後うつスケールで20点以上の高得点者や診断が必要な人は 精神科医師へ、中得点者は心理相談員の面接を実施。面接中、児は保育士が託児を行う。 ■相談機能の強化 ■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関	病院 民間相談機関
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 医師 事務職員 保育士 その他(心理相談員)
	補助金・助成金	なし都道府県
事業の評価	今年度から実施の事業であるため、評価はまだ行われていない。 ■今後も継続する	
今後の課題	15年度新規事業の「保護者のこころの相談」及びグループカウンセリングの活用と評価 及び高得点者の1歳6か月健診での対応について検討していく。	
キーワード	虐待予防 専門相談 ■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防	

・\*・\*・ コメント ・\*・\*・

乳幼児の保護者を対象とした育児に伴うこころの問題への対策事業である。児童虐待の予防や育児不安の解消のために、産後うつスケールの実施やグループカウンセリングが取り入れられるようになってきているが、その後のフォロー体制が十分でないことも多い。この事業では産後うつスケールで高得点者にはマザーメンタルに理解のある精神科医師によるフォロー、中得点者には心理相談員による面接が行われており、フォロー体制が用意されている点で評価できる事業である。(TT)



<b>湖西市市民健康課：乳幼児健診事業(未受診者追跡の強化)</b>		
〒431-0442 静岡県湖西市古見 1044 (TEL) 053-576-4794、(FAX) 053-576-1150 (ホームページ) <a href="http://www.city.kosai.shizuoka.jp/">http://www.city.kosai.shizuoka.jp/</a>		
人口 44,487 人(出生数 425 人) 母子保健担当者:保健師・栄養士・歯科衛生士、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	湖西市では年齢が上がるにつれ健診の受診率が低下する傾向にあります。 平成 13 年度受診率は 1 歳 6 カ月児健診で 93%、3 歳児健診では 86%でした。 平成 14 年度では 1 歳 6 カ月児健診 95.8%、3 歳児健診 94.5%でした。 平成 14 年度では、3 歳児健診の未受診者に対し資料の再送付を普段行っている追跡にプラスしたため受診率が上がったと思われます。 未受診者は主に外国人ですが、日本人の中で未受診のケースには養育面で心配があったり、虐待が疑われるケースがあるため追跡を強化し未受診者の状況を把握するとともに、受診率の向上に努める必要があります。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	発達の節目である 1 歳 6 カ月、3 歳児の時点で健診を実施し、疾病や発達障害の早期発見をする。 また相談を実施し、幼児の健康の保持増進と保護者の育児支援を行う。 健診の未受診者の追跡を強化することで、支援の必要なケースを見落とさず、フォローしていける体制を作る。  ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	幼児
	実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画
	実施内容	未受診者に対し、次回健診を受けるよう電話をかける。 電話が通じない、電話を掛けても未受診の者に対し、ハガキで誘いかける。 ハガキを出しても未受診の者に対しては、1 ヶ月間をおいて 3 歳児健診のアンケートや検査のセット 1 式を送付。 それでも未受診の者は、地区担当から電話で様子を確認したり、幼稚園・保育園等へ確認するなどして状況を把握する。  ■既存事業の工夫
	協力機関	その他(国際交流協会)
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師
	補助金・助成金	なし

事業の評価	未受診者の状況が把握できた割合で評価
今後の課題	外国人の未受診者が多く、電話番号がすぐに変り連絡が取れない、昼間働いていて連絡がつかない、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住居にいないなどのことがあり、状況が把握しきれない。 国際交流協会の協力を得て、手紙を翻訳してもらったり、通訳と動向で訪問することができるが状況を把握できないことが多い。
キーワード	子ども 育児不安
<p>*** コメント ***</p> <p>ここに注目！— 乳幼児健診未受診者への対策は多くの市町村の課題であるが、毎年の実績値の積み上げを単に報告として用いるのではなく、日常業務を分かりやすい形で数値化して評価している点が注目される。その結果として、外国人家族という具体的な支援対象者が明確化でき、かつ「電話番号がすぐに変り連絡が取れない、昼間働いていて連絡がつかない、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住居にいない」などの状況把握から、国際交流協会の協力により、手紙の翻訳、通訳との同道訪問などに結びつけることが可能となったといえよう。</p> <p>エビデンスは？— 子育て支援の立場から乳幼児健診未受診者へのアプローチが必要とのかけごえは高いものの、その方法論については個別の保健機関ごとの事例報告が散見されるのみである。有効な人的資源の利用方法、住民の同意を取りつけるために必要な条件などぜひともエビデンスの集積が必要である。(YY)</p>	

### 祖父母会

祖父母会は平成11年度からはじまりました。毎月第4月曜日、午前10時～正午に総合保健福祉センターで実施しています。平成16年度のメンバーは27人、毎月20組以上の参加があります。内容は手遊びや紙芝居、絵本などの後、自由遊びと参加者同士のおしゃべりの時間を多くとるようにしています。昼食（大人用、子供用のお弁当を準備、実費購入）を食べて終わります。そのまま誘い合って児童館で（同じ施設にあります）遊んでいく方が多くなっています。参加者は、10か月～就園前の子どもと祖母で、孫と同居が60%、母親が働いているため日中の子育てのほとんどをしている祖母が45%です。仕事を休んで別居の孫を連れてくる人もいます。「子育ての励みになる」「仲間ができて、おしゃべりが楽しみ」「祖父母会を名目に孫を連れて出られる」など、好評です。



愛知県半田保健所：虐待防止対策事業（ほっと・はーと・めいとクラブ）		
〒475-0903 愛知県半田市出口町1丁目45番地4（TEL）0569-21-3341、（FAX）0569-24-7142 （E-Mail）handa-hc@pref.aichi.lg.jp		
人口 224,164人（出生数 2,305人） 母子保健担当者：保健師、全保健師数 8人（母子保健担当保健師数 2人） 区分：都道府県保健所		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	虐待の相談事例が増え、また、核家族、少子高齢化、若年の妊娠等、子育てをしていく社会背景が変化していく中、子育て不安、子どもがかわいくない、孤独等子育て中の親へのサポートが必要になってきている。虐待予防の視点でこれらの親に早期に係わりを持ち支援することが大切であると考え虐待防止対策事業を実施した。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	育児不安を抱える母親等の増加、児童虐待が社会問題となっている。 家庭における育児機能の強化が求められる中、虐待問題も予防的見地から保健分野からも取り組む必要がある。そこで、育児不安を抱える母親を対象にグループワーク（MCG）を実施し、子育ての悩み等を表出することにより、自分の気持ちを整理し、また、他の母親の話聞くことにより共感を覚え、自分の気持ちをコントロールできる母親が増えることを目的とする。  ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	乳児 幼児 母親
	実施期間	平成13年9月～平成16年3月 3年計画
	実施内容	2週間に1回、6回コースで実施。1グループ7～9人、2グループ。親子遊び後、母子分離をし、MCG方式でグループワークを実施。コーヒープレイクを導入し、ゆったり話せる雰囲気づくりに気を配った。  ■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関	地域のボランティア
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 保育士 その他（臨床心理士）
	補助金・助成金	都道府県
事業の評価	①コース終了後アンケート調査を実施。 ②3年間終了後アンケート調査実施し、その後の子育てへの気持ち等を把握	

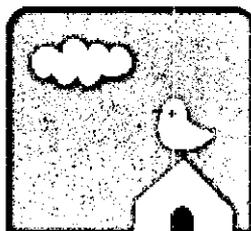
今後の課題	平成 15 年度も継続事業。昨年度のグループから自主グループが立ち上がった。 平成 15 年度は自主グループの育成にも保健所として協力。 今年度のほっと・はーと・めいとクラブのピアを考えている。
キーワード	CG 虐待防止対策事業 虐待予防 ■虐待の発生予防
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 保健機関を中心としたMCG(mother and child group)に先駆的に取り組んだ活動である。現在までに育児不安を抱えた母親の自主グループが立ち上がったという結果が得られ、構造や目的が具体的に他機関への情報としても有用である。コース終了後アンケート調査ならびに 3 年間終了後アンケート調査が企画されており、その調査結果が期待される。できればホームページ等なども用いて事業評価を公表できると、参加者にも他機関にも有益かもしれない。(YY)</p>	
<p>コラム 保健機関における MCG 活動</p> <p>虐待する母親の自助グループとして、社会福祉法人子どもの虐待防止センターや CAPNA(子どもの虐待防止ネットワーク・あいち)などにおいて当事者同士が語りあう MCG(mother and child group)活動が始まり、虐待問題を訴える母親をケアすることで虐待の重症化を防ぐ(虐待予防)、分離母をケアすることで家族の再構築を図る(再統合)の役割が見出されている。保健機関においても、子育て不安等の悩みを抱えた母親同士が、保健師などのコーディネートのもとに、小集団で語り合い、お互いに支え合う場を作り、地区担当保健師の継続支援と表裏一体となった支援としての MCG の取り組みが行われている。その結果として、参加者が仲間と出会い、共感を得ることによる希望、自己肯定感の回復、社会的適応技術の発達などが認められる(中板育美 2002 年)などの報告がある。(YY)</p>	

児童虐待に関する保健機関の役割は、虐待予備軍の悪化を防ぐ予防活動が必要と考え、平成 16 年度はこれまでの 3 年間の事業を評価し、定例的な事業として地域に定着させていくため、有効な虐待予防の支援体制について検討することにしました。

そこで「ほっと・はーと・めいと・くらぶ」の効果について、東京医科歯科大学清水洋子氏の指導により「子育て支援におけるグループ療法の効果に関する調査票」を使用し、過去 3 年間のクラブ参加者を対象に、クラブ参加初期と参加後を振り返り、①「育児困難感」②「子育てに対する罪悪感」③「子どもとの関係」④「子ども以外との関係」⑤「共感・受容・孤独感」⑥「対処(自己表現・SOS の発信・他者への信頼、資源活用、家事罪悪感) ⑦「グループの必要性」について保健師による聞き取り調査を実施し、現在分析中です。

<b>桜江町役場健康福祉課 : ひよこサークル</b>		
〒699-4292 島根県邑智郡桜江町大字川戸 11-1 (TEL) 0855-92-1211、(FAX) 0855-92-0905 (E-Mail) hukusi@sakurae.jp		
人口 3,609 人(出生数 20 人) 母子保健担当者: 保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	保育所に入所していない子どもは同年代の子どもとふれあう機会が少ない。 またその保護者も保護者同士での関わりが少なく、不安を抱え込む人もいる。 地域・保育所で何か取り組みができないか考えた。	
提案者	その他(住民の声、町保健師)	
事業のねらい・目標	・ 在宅の子どもと保育所の子どもがふれあい関わり合うことで、遊びの楽しさを感じ、豊かな子どもに育ち合う。 ・ 保護者の育児に関する悩みや不安を周りの子どもたちを通して見つめ直し、考え合う。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	幼児 父親 母親 家族
	実施期間	平成 11 年 4 月 ~ 未定
	実施内容	毎月第2火曜日に、町内4保育所を園庭開放し、 保育所に入所していない子どもと保育所入所児との交流の場をもうける。保育所の行事にも参加を呼びかける。 ■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関	保育園
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 保育士
	補助金・助成金	なし
事業の評価	在宅の親子や保育所に参加状況を聞く。各保育所毎月2~3組の参加があり、 友達と遊んだり、大きな遊具でダイナミックに遊べることが楽しいとの声あり。	
今後の課題	保育所開放日の PR、参加呼びかけの継続	

キーワード	サークル 保育所開放 ■地域の子育て支援の充実
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 人口 3,609 人の町で、月1回継続して町内4保育所を園庭開放し、保育所に入所していない子どもと保育所入所児との交流の場が設けられている。園庭開放が保育所単独で行われるのではなく、保護者の交流を大きな目的とし、評価として在宅の親子に参加状況や個別インタビューを行うなど保健活動の視点が入っている。人口規模の少ない自治体での有効な資源活用のモデルともなり得る事業である。今後、孤立しそうな家族への誘いかけの工夫やその結果についての検討も望まれる。</p> <p>エビデンスは？— 保育や幼児教育分野では園庭開放による子ども・保護者の交流が盛んに行われている。その中から保護者の個別の相談に保育士が対応することで子育て不安が軽減されたなどの事例の報告は多数認めている。一方、通常の園庭開放は自由参加であり、参加を望まない家族の存在が課題でもある。この地域での経験が、孤立しそうな家族に対してもこうした取り組みが有効となりえるか、どのような工夫が必要なのかとのエビデンスが生まれることを大いに期待する。(YY)</p>	



<b>幡豆郡吉良町保健環境課(保健センター) : 祖父母会</b>		
〒444-0516 愛知県幡豆郡吉良町大字吉田字大切間 17-3 (TEL) 0563-32-3001、(FAX) 0563-32-3144 (E-Mail) hokencenter@town.kira.lg.jp		
人口 22,283 人(出生数 183 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 5 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	吉良町は祖父母との同居世帯が多く、日中子守をしているが公園や児童館へ出向いても孤立してしまうので出かける場所が欲しいという要望があったため、子育て支援は家族を含めたものであると考え祖父母が孫を連れて集まる場を企画した。	
提案者	住民 母子保健担当者	
事業のねらい・目標	祖父母の子育ての仲間づくりをし、地域で孤立せずに楽しく子育てできるように支援する。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	乳児 幼児 母親 家族
	実施期間	平成 14 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 5 年計画
	実施内容	主に祖母が就園前の乳幼児と一緒に参加する。内容は手遊び・紙芝居・自由遊び・昼食と座談会である。個別に保健師の育児相談も行っているが参加者同士で情報交換したり相談し合うことが多い。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
	協力機関	地域のボランティア
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 その他(祖母と同世代の保健師が講師として参加)
	補助金・助成金	なし
	今後の課題	現在月1回実施しているが、回数を増やして欲しいという要望があり、自主活動について検討していきたいと考えている。
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実	

\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— 子どもと老人というテーマをうまく日常活動に取りこんだ事業である。主に祖母が就園前の乳幼児と一緒に参加し、手遊び・紙芝居・自由遊び・昼食と座談会が毎月行われている。人口 22,283 人の町で出生数 183 人と少子高齢の町で、祖父母との同居世帯が多いという背景を逆に利用し、日中子守をしているが公園や児童館へ出向いても孤立してしまうので出かける場所が欲しいという要望が事業に取り入れている。現在月 1 回実施しているが、回数を増やして欲しいという要望があり、有用であると評価している。

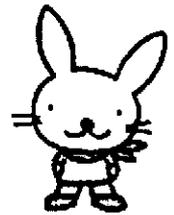
エビデンスは？— 子どもの健全育成や保護者世代の育児不安の低減のために、祖父母世代のパワーを利用する取り組み、三世代交流のための場作りである。看護分野では、こうした交流によりまず祖父母が、高齢期に入る前から生きがいと共通の話題が話せる友人・知人を持ち、健康に注意し、次々世代の子供達や社会の動きに対し関心を持ち続けることが、保健行動を活性化させ、要介護状態の予防につながる。孫を通して現役世代の若い祖父母が、次世代の両親が子育てしやすい環境を地域社会に作ることが期待できるといわれている。社会福祉協議会がコーディネートするボランティア活動などとして各地で取り組みが始まっているもの、その効果が誰のこういった課題にもっともよく現れるのか、今後検討が望まれる。(YY)

御前崎町 健康福祉課 : チャイルド・くらぶ(地域サークル)		
〒421-0602 静岡県榛原郡御前崎町白羽 5403-20 (TEL) 0548-63-6861、(FAX) 0548-63-2517		
人口 12,000 人(出生数 110 人) 母子保健担当者: 保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分:市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	子育て中の親子に会う中で親子だけで普段の生活をしており、母子が孤立していると強く感じました。虐待傾向で問題としてあがるケースも、町内に親戚や友達がないなどの点が問題として上がり、孤立した子育てをしている。孤立した子育てをなくし、虐待防止はもちろん楽しい子育てにしてほしいと思いサークル活動を始めました	
提案者	住民 母子保健担当者	
事業のねらい・目標	サークルでの仲間づくりから虐待防止 チャイルドくらぶでは、親子遊びの学習、地域の人とのふれあい・保育園見学など地域施設との交流保健師が親子とふれあう時間を増やし、親子との信頼関係の構築と乳幼児の発達の遅れなどの早期発見 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	なし	
事業内容	実施期間	平成 15 年 6 月 ~ 平成 16 年 3 月 1 年計画
	実施内容	地域サークルでは、地域の区民館を会場として利用。住民(母親)が自主的に開催サークルでは、栄養士によるおやつづくりもおこなう。 初回におやつ会を開き、サークルの PR と仲間作りに役立てました。 母親たちとの連絡手段は、メールで行い、気軽に他の相談も受けられるようにしました。 同サークルの母親達もメールで情報交換をしています。
	協力機関	保育園 幼稚園 地域のボランティア
	住民参画状況	計画から参加 実施主体側として
	従事者内訳	保健師 栄養士
	補助金・助成金	なし
事業の評価	事業実施中	
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防 ■食育の推進	

\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— 孤立した子育てをなくし、虐待防止はもちろん「楽しい子育てにしてほしい」との思いから、住民(母親)が自主的に開催するサークルを立ち上げた。サークルでは、栄養士によるおやつづくりや保育園見学による地域との交流などが行われており、その連絡はメールで行い、保健師がメールで相談も受けている。母親同士もメールで連絡しあっている。活動事業を展開する方法(母との連絡や交流方法)に楽しさが感じられとても暖かい。

エビデンスは？— 子育てを支援するネットワークづくりには、長い経験の蓄積がある。例えば、愛育班活動や食生活改善推進員、母子保健推進員による地域活動など母子保健行政と住民とが一体となった半世紀以上の歴史を持つ活動が現在も継続されている。近年では保育や社会福祉の分野を中心とした子育てネットワークの養成や母親同士の自主グループづくりも盛んである。その組織構造として、歴史的には住民参画(community participation)ではあっても上意下達型の情報伝達が行われていたものから、近年ではヘルスプロモーションの理念に基づいた住民のエンパワーを目指すものになっている。この事業においても、ヘルスプロモーションの視点がよく生かされている。(YY)



<b>王寺町役場 保健福祉課 健康管理係 : ちびっこクリーン活動</b>		
〒636-8511 奈良県北葛城郡王寺町王寺2丁目1番23号 (TEL) 0745-73-2001、(FAX) 0745-32-6447 (E-Mail) yawaragi@town.oji.nara.jp (ホームページ) <a href="http://www.town.oji.nara.jp/">http://www.town.oji.nara.jp/</a>		
人口 23,539 人(出生数 206 人) 母子保健担当者: 事務・保健師・栄養士・歯科衛生士・その他(医師、歯科医師、臨床心理士、保育士、眼鏡士、助産師、看護師)、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 6 人) 区分: 市町村		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	1. 王寺町内にゴミを捨てている場所がある(道路・川・公園など) 2. ゴミのポイ捨てをする人がある	
提案者	住民	
事業のねらい・目標	1. ゴミのポイ捨てがなくなり、きれいで安全な住みよい町になる 2. 子どもの頃からゴミを捨てないというマナーが身につく  ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	幼児 学童 父親 母親 家族
	実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画
	実施内容	1. 子育て教室や乳幼児健診などの機会に情操教育の一貫として、ゴミを捨てないというマナーを呼びかける 2. クリーンキャンペーンに親子で参加できるように呼びかける 3. 啓発用の子どもにわかりやすい紙芝居・リーフレットの作成
	協力機関	その他(自治会)
	住民参画状況	計画から参加
	従事者内訳	保健師 保育士
	補助金・助成金	なし
事業の評価	○クリーンキャンペーンに参加する親子が増える(増加傾向) ○ゴミとマナーをテーマにした紙芝居を親子に見せる回数が増える(増加傾向) 事業実施前	
取り組みの事業に関するホームページ	<a href="http://www.town.oji.nara.jp/">http://www.town.oji.nara.jp/</a>	
キーワード	マナー	